

学校法人高山短期大学  
高山自動車短期大学  
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日  
財団法人短期大学基準協会

## 高山自動車短期大学の概要

設置者	学校法人 高山短期大学
理事長名	中村 實
学長名	中村 實
A L O	桜井 克典
開設年月日	昭和50年4月1日
所在地	岐阜県高山市下林町1155番地

## 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
自動車工学科		250
	合計	250

## 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	自動車工学専攻	20
	合計	20

## 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

高山自動車短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 19 年 6 月 13 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、岐阜県北部の高山市にあり、その人口は高山市を中心として 16 万人程度ある。通学圏内の高等学校数は 7 校であるため、必然的に学生は全国から募集している。

自動車整備技術者の教育、育成という実学的な専門教育に重点を置く自動車工学科を設立し、教育目標の明確化を図るとともに、高い人間性と専門技術を兼ね備えた職業人の育成という建学の精神・教育理念を掲げ、学長のリーダーシップのもと、教職員・学生に周知・徹底され、全学的に最大限の教育努力がされている。

教育の内容は、自動車工学の基礎から応用まで、学生のニーズに応じて五つの履修コースを設定し、バランスよく学習することが可能となっている。

専任教員は短期大学設置基準を満たしており、教育の責任体制は保たれている。また、多くの教員が、通常授業以外に講習、特別教育に多くの時間を割いており、極めて熱心である。

教育目標の達成度と教育の効果については、国土交通省の自動車整備士養成施設の認定機関として、国家試験合格率は極めて高い。

全国から入学者を集めるため、種々のシステムが設けられている。全国 9 地区に職員を配し、入学試験関連の広報サービスはもとより、地区別懇談会による履修相談や就職相談など、その出身県が全国的に分散している学生及びその保護者へのきめ細かな相談を通じて教育上の支援・指導などが継続的に行われている。

教育活動にかなりの時間をとられながらも研究活動を展開しており、全国自動車短期大学協会の研究会や附属の「人とクルマ研究所」の研究会などで研究発表されている。

文化記念講堂をはじめとする学内諸施設の一般への開放及び地域の著名な伝統文化行事である高山祭りへの学生の奉仕活動は社会貢献として、市民から高く評価されている。

理事長のリーダーシップのもと、適切な学校法人経営が行われていて、教授会と理事会との意思疎通は問題ない。

財務運営は、年度ごとの予算の決定過程、手続き及び執行が適正に行われており、日常

の出納業務も円滑に実施されている。財務体質については、収支状況、資金の維持管理の状況、余裕資金及び借入金から健全である。

自己点検・評価はこれまで2回実施し、相互評価への準備も進められている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学科の特性から専任教員率が高い状況にあるとともに優れた教育内容を保障している。
- 五つの履修コースを設けて学生の希望に対応している。
- 資格の取得については二級自動車整備士だけでなく、ガス溶接技能講習、アーク溶接作業特別教育など、他の資格取得に向けても配慮され、また、学生のニーズや興味に対応して、選択科目も多く配置されている。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館に併設して「飛驒自然博物館」、「クルマと文化研究所」が設置されており、前者は「開かれた大学」としての地域・社会貢献の一環として公開され、後者はクルマ文化を社会的に研究し、自動車工学を志す学生に資する教育・研究活動に励んでいる。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 二級自動車整備士の資格取得の国家試験合格率はほぼ100パーセントと極めて高く、また、多くの学生は資格を得て卒業し、自動車関連企業への就職している。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 全国約10ヶ所に常駐の広報担当者を配備し、入試への対応、入学者へのオリエンテーション、保護者に対する懇談会などを実施している。

## **(2) 向上・充実のための課題**

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 教授会の運営にあたっては、規程に準拠した適切な運営が望まれる。

## **(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は自動車工学科のみを設置する単科の短期大学であり、自動車整備技術を中心とした実学的専門教育を行うことに重点を置きつつ、さらに人格形成教育にも力を注いでいる。これは、高い人間性と専門技術を兼ね備えた職業人の育成を図るという建学の精神として確立され、教育理念として3項目の教育方針も示されている。その下に、教育目標として「自動車工学」に関する幅広い知識と技術を習得し、二級自動車整備士(二級ガソリン及び二級ジーゼル)の取得を目指している。建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標については、学期始めのオリエンテーション、学生手帳、就職ガイダンス、地区別懇談会、教職員の新年度例会など、種々の機会をとらえて学生及びその保護者や教職員に周知・徹底されている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

自動車工学科は二級自動車整備士の資格取得を目指した教育課程である。教養教育は、総合基礎として、人文、社会、自然の3領域にわたって構成されており、専門教育は自動車工学の基礎から応用まで、指定科目が中心となっており、必修科目の比重は高いものの、学生の興味に合わせた五つの履修コース(自動車工学コース、自動車経営コース、自動車電子コース、自動二輪コース、車体整備コース)に応じて選定でき、体系的に編成されるとともに学生の学習意欲を高める努力も行われている。さらに資格取得については二級自動車整備士だけでなく、ガス溶接技能講習、アーク溶接作業特別教育など、他の資格取得に向けても配慮され、学生のニーズや興味に対応して、選択科目も多く配置されている。学習内容、教育方法及び評価方法は講義概要(シラバス)に適切に掲載されている。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員は短期大学設置基準を満たし、教員の年齢構成のバランス、助手・補助職員の数も適切であり、多くの教員が通常の授業以外に講習、特別教育に多くの時間を割き、極めて熱心に取り組んでおり、教育の責任体制は保たれている。また校地・校舎は短期大学設置基準を満たしており、設備・機器についても十分整備が行われ、教育環境は整っている。図書館についてはサービス体制の整備、図書館利用の活発化などにも十分努力がされている。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

当該短期大学は国土交通省の整備士養成施設の認定機関であるが、二級自動車整備士の資格取得の国家試験合格率はほぼ 100 パーセントと極めて高く、また、多くの学生は資格を得て卒業し、自動車関連企業への就職している。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

全国から入学者を集めるため、種々のシステムが設けられている。全国 9 地区に職員を配し、入学試験関連の広報サービスはもとより、地区別懇談会による履修相談や就職相談など、その出身県が全国的に分散している学生及びその保護者へのきめ細かい相談を通じて教育上の支援・指導などが継続的に行われている。また、地区別就職懇談会を開催し、継続して就職先からの意見を聴取する取り組みも行っている。

推薦入試による入学予定者に対し、独自に作成した「基礎数理特別課題」の添削指導、入学後の習熟度別少人数教育など基礎学力の向上のため組織的教育が行われている。また、通常の授業でも、中間試験の実施、補習を行った上での再試験の実施など、学習効果を高める工夫がされている。

### 評価領域Ⅵ 研究

教育活動にかなりの時間をとられながらも研究活動を展開しており、毎年、全国自動車短期大学協会の研究発表会や附属の「人とクルマ研究所」の研究会などで自動車産業に関する研究を行っている。研究経費は潤沢とはいえないながらも、研究室や設備の研究条件は整備されている。

### 評価領域Ⅶ 社会的活動

地域社会との交流の取り組みとしては文化記念講堂をはじめとする学内諸施設の一般へ開放を行い、施設面とソフト面の両面で当該短期大学スタッフが支援している。また、図書館も一般の閲覧に開放されている。学生の社会的活動としては地域の著名な伝統文化行事である高山祭りへの学生の奉仕活動により、地域社会との結びつきを強めている。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人の管理運営については、理事長のリーダーシップのもと、理事会、評議員会など寄附行為に沿って開催され、適正・適切に運営されている。監事業務も寄附行為に基づいて適切に行われている。教授会の運営にあたっては、規程に準拠した適切な運営が望まれる。

#### 評価領域Ⅸ 財務

財務運営は、年度ごとの予算の決定過程、手続き及び執行が適正に行われており、日常の出納業務も円滑に実施されている。財務体質については、収支状況、資金の維持管理の状況、余裕資金及び借入金の状況からは健全である。

短期大学に必要な施設・設備は適切に確保されており、それぞれの管理規程も整備されている。また、施設・設備の維持管理や安全確保にかかわる危機管理対策、省エネルギー対策にも取り組んでいる。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価の実施に着手したのは平成9年であり、これまでに2回の自己点検・評価を実施している。その結果は、報告書にまとめられ、教職員配布されるほか、図書館において自由に閲覧できる。特に「車体整備コース」の新設、「クルマと文化研究所」の新設、当該短期大学の名称変更及び入学定員の変更など、自己点検・評価の成果を踏まえた改善が進められている。